

NPOの次の一手を加速する  
実践型インターネットプログラム

# NPOゲンチヤレ

「地域」×「若者」挑戦の物語

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク



社会の”リアル”に立ち向かうプロジェクトを  
実践者と共に。

## contents

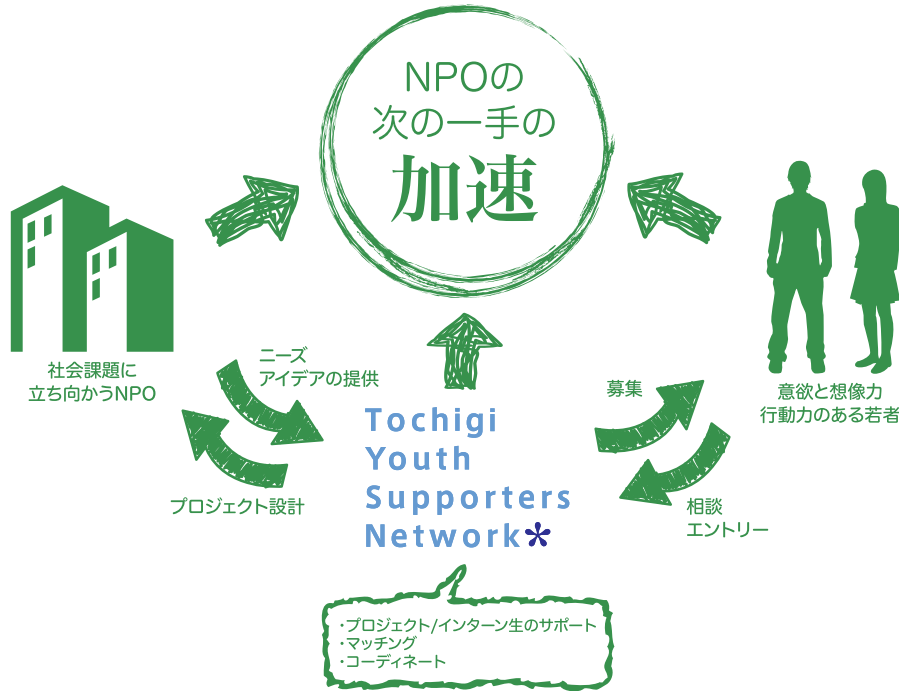
- 02 NPO 向け実践型インターンシップ  
GENBA CHALLENGE とは
- 04 report 1  
新たな森づくりの担い手開拓プロジェクト  
受入団体 NPO 法人とちぎ環境未来基地
- 07 report 2  
薬物依存者の将来の支援メニューを創造する、  
社内アイデアのヒアリングプロジェクト  
受入団体 NPO 法人栃木 DARC
- 10 report 3  
スポンサー企業紹介資料作成プロジェクト  
受入団体 NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- 12 report 4  
地域に新たな動きを創り出す  
コーディネーター養成プロジェクト  
受入団体 NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- 14 NPO の皆様へ
- 16 若者の皆様へ
- 18 Q&A
- 20 ユースのプログラムに参加しよう!
- 21 NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークとは



# NPO 向け実践型インターンシップ GENBA CHALLENGE (NPO ゲンチャレ)とは

## リアルな社会プロジェクトに参画し、 価値創造に貢献するインターンシップ。

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える“課題”の解決や  
“次の一手を創る”現場をインターンシップのフィールドにした、  
若者の「挑戦と成長」の場であり、受入組織の価値創造にも貢献するインターンシップです。  
インターンシップは、「次の社会を創るチャレンジ」のはじめの一歩です。  
共通の関心を持つ仲間と出会い、カッコいい大人に触れる機会になります。



＊ 受入団体様の”変化させたいニーズ”と”アイデア”に基づき、当会がプロジェクト案を設計します。受入団体様と協議した後、そのプロジェクトにインターン生を募集し、マッチングします。

＊ インターン生の受入後、受入団体様に担当者（スーパーバイザー）を配置いただき、インターン生は担当者の右腕となり動いていきます。当会もプロジェクト・インターン生のサポートを行うために伴走します。

### 事例

インターン生が主導し、企業との協力体制を実現。  
360万円を超える寄付を獲得。

NPO法人トチギ環境未来基地

東日本大震災で津波被害を軽減した「防潮林」を再生していく活動を行っています。防潮林となるクロマツの苗木の購入や維持管理は市民からの寄付によって支えられていますが、現場での活動が忙しく、組織として具体的な寄付集めの取組ができていませんでした。

そこでインターン生を中心に寄付の手順を整理し、寄付箱・チラシなどを作成し、寄付の仕組みを整えました。同時に、組織全体としての寄付集めの意識と体制も生まれてきました。

企業にご協力いただいて店舗に募金箱を設置し、寄付付き商品の開発なども実施。3ヶ月で寄付金は58万円を超えました。企業との協力関係はインターン終了後も継続し、1年半後には、寄付金額が360万円を突破。

NPOの活動の周知はもちろんのこと、事業加速にも実践型インターンシップに挑んだ若者の力が生かされています。

▶ インターン生の声はP.17に掲載

### 【一般的なインターンシップとの違い】

	一般的なインターンシップ	実践型インターンシップ GENBA CHALLENGE
分類	見学型・研修型	中期実践型
期間	2週間程度（90時間）	1か月から数ヶ月（約150時間）
参加期間	休暇中のみ	休暇中：週3回 学期中：週2回など
社内での位置づけ	研修生	期間限定の正社員
学生への期待	貪欲な学習意欲 学生ならではの意見	プロジェクトの成功・特定の役割遂行 問題発見・解決
受入側の目的	採用活動の一環 社会貢献	事業・組織の発展
窓口	人事部	経営者・事業責任者
人材育成目標	職業意識の醸成 仕事への理解	起業家的な思考・行動特性の獲得 問題発見・解決能力の獲得
その他	Campus web等のwebで募集 企業情報を見てエントリー	プログラムサイト「SOZO」で募集 弊社が受入プログラムを設計



# 新たな森づくりの担い手開拓プロジェクト

受入団体 NPO法人トチギ環境未来基地



森づくりの活動は環境保全に繋がるだけでなく、共同作業による達成感や仲間を得られる機会として、若者の間で広がりを見せています。このインターンシッププログラムでは、森づくり活動に参加する新たな担い手を広げるため、関心がありながらもまだ参加したことのない若者を掘り起し、活動の面白さや意義を身近で感じられる機会を、実践者と関心のある人の交流を通じて、創り出す取り組みを行いました。現場体験プログラムづくりや運営も実施しています。そのほか、既存のプログラムとの連動化や、森づくり活動の魅力発信など組織内部の運営にも関わってもらいました。

## プロジェクトの背景

日本の約7割を占める森林。森林は、水源となり、豊かな自然と生物多様性をもたらすほか、我々の生活や国土に豊かな恵みをもたらしてくれます。しかし森林の持つ機能を活かすためには、適度に人の手によって管理していくことが必要です。そこを担っているのが林業従事者の方々です。現在の林業従事者の高齢化は21%（平成22年）で、全産業平均の10%に比べて高い水準です。それが原因で管理されなくなった森林も少なくありません。

そこで、トチギ環境未来基地では、新しい形での森づくりを進めています。それが、若者が共同生活をしながら森づくりや環境保全活動を行う長期ボランティアです。参加者は近年増加しつつあり、2014年では2750人が参加しています。

トチギ環境未来基地では、今年度、レベルアップ機会（森づくりリーダー/マネージャー育成）とポテンシャル（潜在層）の掘り起しに注力し、リーダーと新たな担い手の増加によって、県内各地に、気軽に森づくりに参加できるフィールドを広げていくチャレンジをしています。

## インターンプログラム概要

**期間・場所** 2015年6月1日～10月31日 栃木県茂木町

**特徴** トチギ環境未来基地は、県内6か所、県外2か所の環境保全活動現場を持ち、日々活動しています。市民、ボランティアを巻き込みながらの活動では、近年大手会社も参加するなど、多くの広がりを見せています。多くの人の力を活かしながら、活動を行っていく組織運営、コーディネートを視点や技術を間近で学ぶことができます。

### インターン生の取組み

- 1ヶ月目 学生、若者に向けた報告会&交流会の企画、調整、運営  
参加者の現場体験プログラムの企画、調整
- 2ヶ月目 交流会に向けた資料の作成  
広報や交流会の実施
- 3ヶ月目 現場体験プログラムの広報、運営
- 4ヶ月目 交流会参加者の主体的発信への仕掛けづくり

### 得られる経験

コーディネート力だけでなく、安全に誰でも作業できる活動を指導できる力を付けること。コミュニケーション力。活動のために常に試行錯誤し向上する力。活動のために必要なことを発想し形にする力。安全に作業する力と指導する力。

### こんな人にオススメ

森づくり活動団体の組織運営を知りたい若者。森と若者、農山村と都市部の繋がりづくりに関心がある若者。

## インターンの成果



### 1 情報発信力を強化できた。

メールマガジンの配信者数が2倍増（50名から100名へ）  
Facebookのページいいね！数が1.5倍増（345人から500人へ）  
Twitterのフォロワーを100名獲得（0名から100名へ）  
お店へのボランティア募集チラシ設置店舗が9店舗に（0店舗から9店舗へ）



### 2 定期的にボランティア参加する若者が増えた。

交流会参加者が4倍増（12名から49名へ）  
中級研修参加者を7名獲得（満員）



### 3 組織内に、FacebookやTwitterで、継続して情報発信する仕組みができた。



受入団体に  
こんな**変化**が生まれました

「よそ者」だからこそできた変化があった。

NPO法人トチギ環境未来基地 大木本 舞さん

私たちは、若者と地域をつなぐ環境保全ボランティア活動を運営しているNPO法人で、栃木県内の若者、特に大学生のボランティア活動を発展させていくことで、地域に根差した活動へと発展させていきたいという目標があり、2015年6～10月までインターンシップを受け入れさせていただきました。

インターン生を受け入れたことで二点の変化があります。各職員の効果的に広報を行うための意識が高まったことと、大学生の目線にたつて、より参加しやすいボランティアスケジュールをつくりこめたことがあげられます。

例えば、私たちの活動場所は益子町近辺で公共手段が限られることもあり、宇都宮駅からワゴンの送迎をだすこととなりました。今まで、「森林整備の参加者を増やしたい。」という思いから、ボランティア募集をしていましたが、ボランティアのニーズにも合わせる重要性を意識して取り組んでいます。

大学生ならではの視点やフットワークの軽さを持ち合わせる「団体のよそ者」だったからこそできたことだと、GENBA CHALLENGEプログラムに感謝しています。



report

2

## 薬物依存者の将来の支援メニューを創造する、社内アイデアのヒアリングプロジェクト

受入団体 NPO法人栃木DARC



薬物依存回復支援の専門組織で、職員が社内で新たな支援メニューのアイデアを提案しやすくするきっかけを創出するプロジェクトです。インターン生が職員にヒアリングし、組織の強みを活かした新たな支援メニューのアイデアを得る活動を行いました。

現在、薬物依存者に関する課題として、施設で支援を受けて依存症から回復を果たすも、実際に社会復帰へ繋がらないという人々の存在が挙げられています。そのような現状を克服するため、若者と職員が栃木DARCの回復支援施設を回りながら、つむいだアイデアを、若者がまとめ・情報収集・検証を行い、新たな支援メニューの創造をサポートしました。

### プロジェクトの背景

平成28年6月より『薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部の執行猶予に関する法律』が改正されます。これにより、栃木DARCでも利用者の増加を予測し、それに対応するために県内に施設を開設します。その際の課題は主に2つです。1つは、『エリアマネージャー』が開設する施設のある地域の管理や栃木DARCとの調整を行う新たな役割として必要となりますが、そのための人件費が無いということ。2つはDARCで薬物依存状態から回復しても、実際に社会復帰へ繋がらないケースが存在することです。

以上の課題解決のためのアイデアが、代表以外の職員からなかなか出てこないというのが背景です。

インターンを乗り越えて  
学んだこと

ミッション達成という貢献と、1ランク上の経験。

宇都宮大学 農学部農業環境工学科 吉田 直樹さん

大学2年次に初めてトチギ環境未来基地の森林ボランティアに参加しました。そこから森林分野のリーダーの役割、プロジェクトの作り方などに興味を持ち、インターンとしての参画を決めました。

プロジェクトミッションである若者や学生の活動への参画を広げていくことは、想像以上に大変でしたが、友人に話すことから始め、これまでつながりがあった人たちがボランティアに参加してくれ、その後も定期的に参加してくれるようになったことについて達成感を感じています。

全体として、とても貴重な5か月間でした。組織内のミーティングでの先輩から得る経験、自分が進行するミーティングでの準備の重要性、現場での運営の中でのメンバーを見ることなど外側からでは得ることのできないことがたくさんありました。

また、組織の一員として動いたチラシの営業や、コーディネート役として参加した「黒川クリーン作戦」など1ランク上の経験ができました。インターンを経て、年代、国籍、様々な人とのかかわりを通じていろんな世界が見られました。今後の人との付き合い方、職場での人間関係など活かしていきたいです。



## インターンプログラム概要

**期間・場所** 2015年11月25日～2016年2月16日栃木県宇都宮市

**特徴** これからの薬物依存者の支援策に最前線で向き合う職員と共に、アイデアが生まれる現場に立ち会えます。また、回復支援の仕組みを広く学べ、社会復帰へ向けた新たな支援メニューの創造に携われます。

### インターン生の取組み

- 1ヶ月目 団体の業務理解、新たな支援メニューのアイデアにつながる情報収集。  
薬物依存者の支援について、職員と回復支援施設を回りながら、現在の支援内容を知る。
- 2ヶ月目 団体の課題の理解・新たな支援メニューのアイデアを職員からヒアリング。  
新たに開設する施設のエアマネージャーを支え、かつ回復支援を受けた後に社会復帰へ繋がらない利用者への対応をするためのアイデア・支援策について職員にヒアリングを行い、まとめる。また、これらの課題に対応するために現在行われている試験的な事業について、調査のサポートを行う。
- 4ヶ月目 ヒアリングしたアイデアの発表に向けた準備・発表。  
職員からのヒアリングを行ってまとめたアイデアについて、代表・社員の前で発表を行う。

### 得られる経験

他者の意見をまとめ、立場の異なる人にアイデアとして提案する力。課題解決のためのアイデアを他者から引き出す力。職員、代表、利用者など様々な立場の人と関わって培われるコミュニケーション力。課題を発見し、現状を把握して解決に近づけていくことのできる多角的視点。

### こんな人にオススメ

社会復帰を望む人々の力になりたい人。現状の課題を解決するためのアイデアを引き出して、解決に導く提案をしたい人。薬物依存者支援の現場に興味がある人。大学の実習では学べない、現場に携わりながら組織の課題解決に貢献したい人。

## インターンの成果

- 1 ヒアリングを通じて職員の想いや未来へアイデアをまとめることができた。
- 2 7つの新規事業案を、提案することができた。
- 3 職員が集い、新規事業や未来のアクションを話し合う機会を創ることができた。

受入団体に  
こんな**変化**が生まれました

付き合いで受け入れたインターンから、  
新しい風が吹き込んできた。

NPO法人栃木DARC アウトリーチ部長 栃原 晋太郎さん

今までの経験で言うと、栃木DARCという団体自体が薬物依存症当事者で運営されていることや、活動の対象となる人や機関も独特で、外から人が入った時に成功していくイメージが持てなかったこともあって、ボランティアを含め協働の申し出の多くは断ってきました。今回はとちぎユースサポーターズネットワークの岩井さんからのお声掛けというのが一番の理由でしたし、お付き合いという気持ちが大きかったです。

ただ結果としては、職員一人一人が目黒さんの持っている人間性やスキルに影響をうけました。まずは聞き上手であること。漠然と持っていた不安全感や違和感を口に出すことが出来て、各自の現状を理解して課題の確認をすることにも繋がりました。将来的にはほっと置いて放置していた新規事業を具体化する為に並走してもらいました。

目黒さんが提案してくれた新規収益事業についても、来年度にどれくらい組み込めるのか職員みんなで楽しみながら可能性を話し合っています。良い風をいれてもらって感謝しています。



インターンを乗り越えて  
学んだこと

利用者のことを考えぬいた時間に見つけた、  
たくさんの気づき。

宇都宮大学 国際学部国際文化学科 目黒 雅結さん

インターンを通じて、「変わろう」とする、変わらなげやいけない生活をしている利用者の人々を見て、すぐ後ろめたい自分がいました。変わらなげやいけないところにフタをしている自分、ごまかすことができている自分に気づきました。同時に、それを乗り越えようとする、乗り越えた経験こそが自分らしさであり、強みになると思いました。

自分の弱いところをごまかすこともできないのだから、目を背けず、むしろしっかり向き合っ  
て時間をかけて取り掛かりました。どうやったら利用者が「楽しい！」と思うか「元気づけら  
れるか」「ワクワクするか、笑顔やキラキラとした目になる利用者のことを想像しながら事業を  
考えていた時間が「必要だから」と思うよりも「楽しさ」の方が強かったです。これからは、どう  
やったら「つながり」を作る場に関わりづらい人が参加しやすくなるのか、どんな工夫ができる  
のか考えたいというのが今回のインターンを始めた本当に最初のキッカケでしたが、まず「つ  
ながり」を作る場や、それを作り上げる取り組み自体に愛着のような、つまりは当事者意識に  
近いものを感じてもらおうことが大事かなと思いました。

また、私自身、そんな感情が湧くものと言ったら「ワクワクさせられたり」「元気づけられたり」  
「楽しませられたり」したものがほとんどだと気づきました。

ポップカルチャーやサブカルチャーは多くの人にそういった感情を湧かせているものだと  
思ったこと、だからもっとその力を知りたいなと思ったこと、単純に好きだから、ということで  
春からそういった分野に飛び込んでみようかと思っています。



# スポンサー企業紹介資料作成プロジェクト

受入団体 NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク



若者に期待し、応援してくれるスポンサー企業(賛助会員企業、協賛企業)の若者への想いをより多くの若者や会社に向けて、発信していくプロジェクトです。取材内容を紙面にして、各プログラムの参加者への配布や、他のスポンサー企業開拓の際に説明資料となるものを作成しました。若者を応援する企業の価値を広く社会に発信する意義も込めています。

## プロジェクトの背景

当会は、2015年3月現在16社の賛助企業・協賛企業の支援を受け、事業の推進を行っています。当会のスタッフは日頃多くの企業経営者の皆様にお会いすることがあり、個別のご相談の他、メールマガジン等での情報提供などを行っていました。そこに加え、出会った会社の資源をより若者の成長に使うようにしていくために、すでに応援してくださっている企業様の想いや協力内容を事例としてまとめ、発信したいと考えました。その結果、スポンサー企業との関係性を深め、かつ潜在的に若者を支援したい企業を掘り出し、より会社と若者を近づけることを目的としています。

## インターンプログラム概要

期間・場所 2015年 4月20日～ 8月31日 栃木県宇都宮市

### インターン生の取り組み

- 1ヶ月目 スポンサー企業のリサーチ、取材計画、長期行動予定づくり。取材のレクチャー、アポどり、記事化。
- 2ヶ月目 取材、コンテンツづくり
- 3ヶ月目 取材、コンテンツづくり
- 4ヶ月目 冊子化・デザイン構成等、スーパーバイザーと協議し決定。作成。

### 得られる経験

想いを聞き、伝える編集力・発信力。会社に自ら出向き、関係を創れる力。自らが目標設定し、行動計画を立て、実行する「計画実行力」。

### こんな人にオススメ

若者の成長を応援してくれる企業経営者に会いたい。見えない物語を見えるように「可視化」し伝えていく仕事に就きたい。NPOの組織運営や資金調達に関心がある。

## インターンの成果

- 1 広報誌「若者チャレンジレポート Vol.2」の完成・発行。
- 2 スポンサー企業紹介資料「若者を応援する会社がある」の完成・発行。
- 3 賛助会員協賛企業を広げることができた。

受入団体に  
こんな**変化**が  
生  
まりました

挑戦する若者が持つ  
「本音を引き出す力」によって見えてきたもの。

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗



日々の現場の取組みの中で、職員は、賛助会員企業(スポンサー企業)の広く若者の挑戦への応援と期待を感じていました。その想いや限界を持った先輩方(スポンサー企業経営者)をより多くの挑戦する若者に伝えたいと思い、始めました。そのヒアリング自体に、挑戦する若者が取り組みました。本プロジェクトではインターン生の力や魅力の一つである、挑戦する若者が持つ、本音を引き出す力を十分に発揮してくれました。その結果、スポンサー企業の当会や挑戦する若者への期待を、改めて確認できました。インターン生が紡いだ声は、私たちの進むべき道を照らしてくれて、さらに力強く、自信をもって進むことができます。また、挑戦しようとする若者の背中を押せるように、インターン生が制作した資料を、今日も新しく出会った若者に渡しています。

インターンを乗り越えて  
学んだこと

たくさんの悩みや困難。  
それを乗り越えて得た自信と次の目標。

国際医療福祉大学 医療福祉学部医療福祉マネジメント学科 高橋 伸明さん

インターン中は複数の業務をこなすことへの戸惑いもあり、スケジュール管理及び計画的な作業が上手くできなくて、文書の作成が思うようにはかどらず、時間が過ぎていきました。また、大学生としての役割もあり、日々悩みや困難との戦いながら毎日過ごしていました。そんな中、支えとなったのがユースの顔とも言えるスタッフの方々です。

今まで失敗やミスをしてしまう機会は多くありましたが、インターン中に様々な助言・ご指導を頂き、自分自身でその原因をゆっくりと突き詰め、自分を見つめなおす時間を与えてくれました。

今も解決すべき課題はありますが、インターン開始前にはなかった、客観的分析が自分のできるようになってきています。

今では、これまで業務の効率が思わしくなかったことを考え、スタッフと相談の上、自身の環境改善に努め、一つの業務に作業に集中して取り組めるようになりました。その結果、無事にインターン期間中に自身の業務にめどを立てることができて、嬉しく思います。

当初は自信を持っていないままインターンに飛び込みましたが、プログラムを終えた今では自信を取り戻し、新たな目標に進みます。私は医療福祉分野で働く夢を実現させるためこれからは社会福祉士の国家試験に向けて勉学と病院実習に臨みます。当会でのインターンの経験を糧に医療福祉分野で貢献できる存在となれるよう、明日からの新たな一歩を進みたいと思います。



# 地域に新たな動きを創り出す コーディネーター養成プロジェクト

受入団体 NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク



地域課題の解決に取り組む若者にとって課題の現場が「挑戦と成長」の機会となり、多くのプレイヤーが参画するようになることを目指します。そのために“次の一手”を創り出そうとする組織と、挑戦する若者を繋げていくコーディネーターを実践的に育み、人材の増加と質の向上によって、新たな地域づくりのプログラムを創出していくプログラムです。

## プロジェクトの背景

NPOや社会貢献型志向企業において、“次の一手を創り出す”人材が不足しています※1。一方で、地域貢献意欲のある若者が増えてきています※2。当会は両者をつなぎ、地域社会への新たな価値創造を展開していくために、実践型インターンシップ事業に取り組んでいますが、組織ニーズと若者の貢献意欲を繋ぎ、外部資源を巻き込みながら、地域活性化への価値を創出してける地域づくりコーディネーターが不足している背景があります。

※1 「人材不足を感じている企業87%」マンパワーグループ 2013年5月調査  
※2 厚生労働省 2013年

## インターンシッププログラム概要

**期間・場所** 2015年 6月1日～12月1日 栃木県宇都宮市

### インターン生の取組み

1ヶ月目

コーディネーター業務の理解。  
新たな支援スキームづくりの会議参加や、  
各種プログラムづくり。

2ヶ月目

NPO 等への実践型インターンシップの説明や導入提案を実施。

3ヶ月目

参画 NPO へのプロジェクト提案、導入体制づくりの調整。

4-6ヶ月目

参加者募集、マッチングコーディネート  
インターンシッププロジェクト説明会実施。

### 得られる経験

地域の課題解決、活性化に向けて、現状分析手法と提案力。人を巻き込んでいくコーディネート力。多様な関係者と繋がっていくコミュニケーション力。

### こんな人にオススメ

人を繋げて、新たな動きを創り出したいコーディネート業に関心のある若者。コンサルティングなど、現状の課題を解決に導く提案をしたい若者。地域の課題解決 / 活性化に関心のある若者。

## インターンの成果

- 1 インターン生を受け入れるNPOが初めて生まれた。
- 2 コーディネーターに必要なこと、考え方、仕事の仕方、流れをまとめることができた。
- 3 NPOへの導入が広がった一方何が導入障壁なのかがあった。

受入団体に  
こんな変化が生まれました

若者たちが作り上げた実績は、  
NPOにおけるインターン導入の一番の説得材料。  
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗

インターン生自身に、コーディネーターの実践的役割を持たせ、導入やマッチング、サポートなど指導しながら、コーディネーターの育成ノウハウを蓄積することができました。彼らのおかげで、初めて導入することになったNPOや次年度に導入するNPOが広がりました。また大学生のインターン生が加わったことで、大学生間の情報発信などの広がりも見えました。

NPOが抱えている課題や描いているアイデアを実現していくために、「実践的参加」を募る難易度は決して低くはありません。しかし、相手の深い理解と現状把握、変化した後のHAPPY、我々が提供できることとその価値を考え抜き、途中で投げ出すこともなく、やりきってくれました。彼らインターン生が動き続けてくれたことが、NPOへの一番の説得力であり、若者が活動に参画することの期待値を高めるものでした。我々もインターン生の力を借りて成長してきましたが、確実に変化を創りだす若者たちがいることを証明し、これからも広く社会に発信します。

インターンを乗り越えて  
学んだこと

受け身ではなく、新たに価値を生み出す心構え。

国際医療福祉大学 医療福祉学部医療福祉マネジメント学科 門間 大輝さん

インターンシップ・プログラムの設計及び提案、とちぎユースのインターンに新たな若者を参画させようきつかけの創出、学生向けメルマガコンテンツの作成やインターンシップチラシの作成など情報発信の仕組みづくりを行いました。それを通じて、コーディネーターの役割が幅広く存在し、また求められているということが、地域で活躍するプレイヤーを見て実感できました。仕事を生み出すコーディネーターと共にインターンを行えたことで、改めてコーディネートすることへの興味関心が増し、経験値を得られた実感が湧きました。

今後は、就職した際、受け身的な仕事をするのではなく、新たに価値を生み出していく事をモットーにこの経験・考えを活かしていきます。また自身が行っている地域貢献活動にて、本コーディネーター養成プロジェクトで学んだコーディネートスキルを発揮していきます。いずれは、生まれ育った地元に対し、社会的価値を提供する事を目標とする際、今回学んだコーディネートスキルを活かしていきます。

自分が感じた幸せを、皆に届けたい。

宇都宮大学 農学部農業経済学科 渡辺 明里さん

インターン通じた変化として、自分なりの強みや得意なことがあると肯定し、それを活かせる場面もあると思えることができました。また、相手の話を「聞く」ことを大切にできるようになりました。誰かと協力して何かをやり遂げるときでも、普段の何気ない会話のなかでも同じこと。相手自身を知りたいとき、アイデアを引き出したとき…どんな切り口の質問をするかも考えられるようになりました。行動を起こす前に、まず一息ついて「中身」をよりじっくりと考えられるようになりました。

また学びとして、話し合いを行う際には、プラスの言葉で肯定しながら足りない部分を補っていくことや、相手に何かを提案するとき「相手のメリットやワクワク・ハッピーは何か？」をまず考えること、そして「制度の狭間」で苦しむ人たちを支援するNPOが栃木にはたくさんあり、多くのNPOや企業の共通課題が後継者育成問題であること、その深刻さを感じました。

インターンを通じて自分が感じた幸せを、他の人にも届けたいです。今は、就職するならばその気持ちを活かせる仕事をしたいなあ、とも思っています。ここで得た経験は、社会に出てからもきっと活かせるはずです。私がお世話になったぶんを、しっかり還元していきたいです。



# 若者の力を活かして、活動の”次の一手”を加速させませんか。

NPO ゲンチャレとは、NPO のニーズやアイデアに即したプロジェクトに、若者が長時間に渡り (150 時間、1 ～ 数ヶ月間) 一生懸命取り組むインターンシップです。

- ・代表のアイデアを形づくる右腕が増えます。
- ・新たなものを創造していく挑戦の風土が生まれます。
- ・新事業の萌芽期に職員採用に伴うリスクが軽減できます。
- ・創造気質があり、未来の幹部候補となりうる人材と出会うことができます。
- ・新たな価値を創造する次の一手づくり (事業開発) を加速します。

## [ 導入のメリット ]

### 事業成果に貢献

学生のやる気とフットワークを活かし、新しい事業の成長に貢献します。

### 意欲的、挑戦的な団体風土の起爆剤

インターン生による職員への質問や相談が、新たな展開や団体風土を創るきっかけとなり、いい意味でのかき回し役になります。

### 若手職員・幹部職員の成長

意欲的なインターンシップ生に教える経験から働く姿勢も前向きになります。また指導者・リーダーとしての自覚や意欲、責任感を育む事ができます。

### 新たな視点、アイデア、感性を取り込む

団体内の常識、業界の常識を越えた柔軟な発想や気付きを提供し、サービス開発や顧客開拓など、新たなチャンスを生み出します。

## [ インターンシップ受入の流れ ]

### step 1

インターン受入をご検討の場合、ユース事務局までご連絡ください。担当から打合せのご連絡をさせていただきます。

TEL 028-612-3341

Mail ysn\_office@tochigi-ysn.net

### step 2

貴団体に担当がお伺いし、お打合せを行います。その際、貴社のビジョンや課題、インターン生に期待することなどをヒアリングいたします。

### step 3

ヒアリングした内容をもとに、インターン生受入プログラムのご提案を行います。

### step 4

提案内容に合意いただけましたら、インターン募集開始となります。その際、インターンシップ導入費 (40,000 円) をお支払いいただきます。

### step 5

インターン申込者と面接を行っていただきます。両者合意が取れましたらインターン開始となります。会費・協賛金、賛助会費 (計 60,000 円) 等をお支払いいただきます。

### step 6

インターンを実施します。インターン中はユース事務局も随時打合せをおこない進捗確認・フォローアップを行います。

### step 7

インターン終了後、成果報告会を実施します。受入団体のご担当者様も可能であればご参加をお願いしております。



## [ 料金 ]

①インターンシップ導入費 初回導入特別価格  
プロジェクト設計後、合意にてお支払 **40,000 円 (税別)**

インターンシップ生の導入ノウハウの提供、プロジェクトの設計、貴団体・プロジェクトの広報 (大学での掲示 / HP / SNS / メルマガ)、大学で直接学生に向けての事前説明会、貴団体の紹介。

②会費・協賛金 初回導入特別価格  
マッチング後、お支払 **50,000 円**

インターン希望者の個別相談、一次面談、研修 (ビジネスマナーやミッションの確認)、インターン中の団体様・インターン生のフォロー、取組みのプレスリリース (実績: のべ 10 社が掲載、うち写真付 7 社)、成果報告会での貴団体の紹介。

③賛助会費 初回導入特別価格  
マッチング後、お支払 **10,000 円**

各種当会事業での大学生などの若者への貴団体の情報発信 (インターン終了後も継続)、当会会員限定の交流会へ招待。

④活動支援金 (任意)

インターン生を直接応援する費用。エントリー学生のすそ野を広げることができます。

## 地域を元気に、若者の力で。成長と挑戦×価値創造。

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える“課題”の解決や“次の一手を創る”現場をフィールドにした、若者の「挑戦と成長」の場であり、受入組織の価値創造にも貢献するインターンシップです。

インターンシップは、「次の社会を創るチャレンジ」のはじめの一歩です。共通の関心を持つ仲間と出会い、カッコいい大人に触れることができます。課題を見つめ、視野を広げる。実践を通して、想いと力を高める。”創るを共に”。

### こんなあなたにオススメ!

1つでもあてはまったあなたにオススメのインターンです。

自分を変えたい!

本気で挑戦し  
自分の限界を知りたい!

平凡な学生生活から  
抜け出したい!

将来、起業したい!

人に語れる何かを手に入れたい!

一生モノの仲間と出会いたい!

ミライを  
切り開く  
力をつける!

安心の  
サポート体制で  
学業と  
両立も大丈夫。



### 特徴

企業・団体が欲しがることが身につく!

団体の代表者や専門家・職員などと近距離で働くことができ、チームワーク力・主体性・課題分析力・提案力など、新しいことを創造するためのスキルとマインドを高められます。

修了生の就職決定率が高い!

当インターン参加者総計は56名(2015.6現在)。そのうち、卒業した23名の100%が就職決定し、4名が起業しました。

サポートも万全

担当コーディネーターが伴走し、個別相談や交流会などで支えます。インターン同期との定期的な報告会も行い、仲間同士で支え合うこともできています。

### インターン修了生の声

挑戦の先には、こんな気付きや成長がありました。

郷間梨々加さん



「困ったときは、ユースがいる!」この安心感に支えられ、チャレンジを乗り越えることができました。私は2012年9月~12月までゲンチャレを通じてトチギ環境未来基地でいわきの海岸林を再生させる「苗木forいわき」プロジェクトに関わりました。

チャレンジを終えた今、気分は最高!達成感と一緒にたくさんのものがついてきました。経験・仲間・思い出・新しい自分・生き方のヒント。がんばって嬉しい結果が起きた時に、「ユースに報告しなきゃ!」って真っ先に思うんです。一緒に喜んでくれる姿を見ると「またガンバって報告するんだ!」って思います。これは私にとってとても大きなエネルギー源でした。

▶ 詳しい成果についてはP.3に掲載

### インターンシップ参加の流れ

#### step 1

ホームページに募集中のプログラムが掲載されていますので、エントリーシートをダウンロード・記入し、事務局にメール添付で送信してください。

<http://sozo.tochigi-ysn.net/project/genba-challenge/>



#### step 2

事務局にて、面接・事前研修・オリエンテーションを行います。インターンへの意気込みなどを伺う他、心構えやビジネスマナーなどについてお伝えします。

#### step 3

受入団体にて、面接を行います。両者合意が取れたら、インターンが決定します。

#### step 4

インターンを実施します。実施期間中は、インターンの他、1~2週間に一度、事務局にて打合せを行います。進め方についての悩みなど、担当コーディネーターが親身になって対応します。

#### step 5

インターン修了後、レポートを提出していただきます。

#### step 6

インターン報告会に出席し、自分の活動を次のインターン候補生に向けてプレゼンしていただきます。

▶ P.19のQ&Aもご覧ください。



# Q&A

インターンシップの導入を検討している

## 団体のみなさまへ

**Q. インターン生を受入を検討していますが、どうすればよろしいでしょうか。**

A. 大まかな流れとしましては、貴団体へ訪問し、概要説明とインターン受入に関する団体内ニーズやアイデアをお聞きします。その後、こちらでインターン生受入のプロジェクトを策定し、ご提案します。ご提案内容をもとに協議し、合意できましたらご契約となります。その後広報を開始し、インターン生希望者とのコーディネートを行い、貴団体に受入の可否を判断する面接を行って頂き、開始となります。(マッチングでき次第、協賛金をいただき、団体とインターン生のフォローを致します。)

**Q. 協賛金はいくらかでしょうか。**

A. P.15をご覧ください。

**Q. 受け入れ先へのフォローとは具体的にどんなことですか。**

A. インターン生に関する問題やどのように関わればいいのかという疑問に対し、本人への働きかけを含め対応致します。その他、貴団体での取り組みをプレスリリースや当会での情報発信媒体(学生、行政、メディア、大学等)で発信致します。

**Q. 学生が物を壊したり、情報漏えいなどのリスクが心配なのですが？**

A. インターン生には、参加するに当たり、誓約書を書いてもらい、十分に注意をしております。インターン生を「期間限定の社員」と捉えて頂き、団体に損害が起きた場合、基本的には団体側の責任として捉えておりますが、万が一のため傷害と賠償の保険に加入させています。

**Q. インターン生に、自団体の求人情報を教えてもよろしいでしょうか。**

A. インターンシップは、職業紹介ではなく、若者の挑戦と成長、学びの機会であることをご理解下さい。なおインターンシップ修了後においては、団体と個人の関係になります。採用や求人に関する業務は、当会では致しかねますので、ご了承下さい。

**Q. インターン募集の案件と内容が変わってしまう場合、どうすればよろしいでしょうか。**

A. プロジェクトの展開は、予期せぬ展開も考えられます。変更する場合には、とちぎユースサポーターズネットワークと受入先、インターン生との間で協議し、進めていきます。

**Q. インターン終了後には、何かありますか。**

A. 「受入側フィードバックシート」のご提出と「成果報告会」等へのご出席をお願いしています。

応募を検討している

## 学生・若者のみなさまへ

**Q. 「実践型インターンシップ“ゲンチャレ”」って何？**

A. 大学が通常行う職場体験的なインターンシップではなく、実際に企業や団体の中で、責任を持って、プロジェクトの開発や運営に参画する会社の“次の一手を創り出す”インターンシップです。実際に仕事に取り組む事で、自分の成長を促し、会社・団体・社会に新しい価値を創造していきます。

**Q. 期間はどのくらい？**

A. NPO向け実践型インターンシップは、概ね150時間(1カ月～数ヶ月)になります。(企業向けは300時間) 社内のニーズからプロジェクトの実施、成果を出すこととインターン生が成長していく上で最低限必要な時間だと考えております。ただし、学生の場合、授業の空きコマなどを利用し、週10時間程度、長期休暇中で週30時間程度と、大学との両立を図ったり、スケジュールを工夫して参加している型が多いです。その他、学生に向けて長期休暇中、短期実践型インターンシップとして2週間(90時間程度)も実施しています。

**Q. 学業やアルバイトと両立できますか？**

A. 両立できます。学生の場合、学業もアルバイトもある人が大勢参加しています。受入先との日程調整等する他、時間をやりくりするタイムマネジメントも“仕事ができる”力になります。

**Q. スキルはまったくないけど、大丈夫ですか、不安です。**

A. スキルはまったく必要ありません。やる気とできるようになりたいその気持ちがあれば十分です。

**Q. インターンシップ中、サポートしてくれるのですか。**

A. 専属のコーディネーターが、事業の成果とインターン生の成長に繋がるようサポートします。インターンシップ中の相談はもちろん、事前・事後の研修なども行います。またインターン生の同期生の定期的な報告会も行い、インターン生同士で支え合うこともできています。

**Q. インターン生に給与や交通費などは頂けるのですか？**

A. インターンシップはアルバイトと違う(挑戦と成長、学びの機会)ので、給与は出ません。ただし受入企業・団体によって異なりますが、活動支援金が支払われることがあります。交通費に関しては、支給される場所が多いです。念のためスタッフまでご確認ください。

**Q. いつから始められますか？**

A. 受入企業・団体の状況により異なりますが、条件が合えば、申込から約2週間程度で、インターンシップを開始することができます。

**Q. 参加するために費用はかかりますか？**

A. インターンシップがマッチングした時点で、事務手数料、保険料を含む会費(500円)を頂きます。

**Q. 関心はあるのですが、参加するか迷っています。相談できますか？**

A. 事前にご連絡いただければ、いつでも個別相談致します。その他、インターン修了生による成果報告会やインターンシップ説明会などの機会も予定していますので、ご参加下さい。

**Q. どんな企業・団体にインターンシップできますか？**

A. P.17「インターンシップ参加の流れ」で紹介されている申込みサイトをご覧ください。栃木県内で地域に愛され、社会的価値を創造し、若者の力を必要としている企業・団体の方々が入受先となっています。

**Q. 学校の単位になりますか。**

A. 大学によって異なります。大学のキャリアセンターや就職支援課等でご確認下さい。

**Q. とちぎユースサポーターズネットワークはどこにあるの？**

A. 東武宇都宮駅から徒歩3分のところになります。詳しくはP.20をチェック！

ユースのプログラムに  
参加しよう!

ユースでは、この冊子で紹介しているNPO向け実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」の他にも、様々なプログラムを用意しています。ここでは、若者が主役です。地域づくりに参加したい、自分の力を試したい、新しい世界へ飛び込みたい。そんな若者をユースはいつでも待っています。詳しくは、プログラムサイト「SOZO」から。

<http://sozo.tochigi-ysn.net>

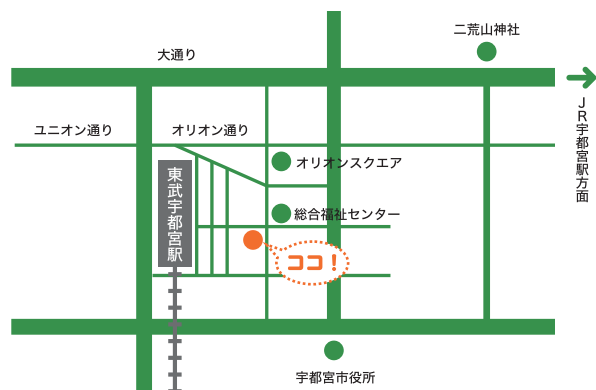
「主役になれる」チャレンジが  
君の参加を待っています!



アクセス  
お問合せ

プログラムに対する疑問や質問、不安なことがあればいつでも事務局まで。スタッフが親身になって対応します。

☎ 028-612-3341    ✉ ysn\_office@tochigi-ysn.net  
LINE @mj9564b    🐦 @youth\_tochigi



栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F(1Fは松島歯科さん)  
OPEN 9:00~18:00 (月~金)

電車 東武宇都宮駅より徒歩3分、JR宇都宮駅より徒歩20分  
バス きぶな号にて、総合福祉センター下車、徒歩30秒  
お車で 駐車場がありませんので、コインパーキングをご利用ください

NPO法人  
とちぎユースサポーターズネットワーク  
とは

若者の力を活かして  
地域活性化/課題解決を  
加速する

私たちNPO法人とちぎユースサポーターズネットワークは、若者を必要としている地域と、社会貢献意欲のある若者を結びつけることで、地域が抱える社会問題を解決し、よりよい未来を生み出すことを使命としています。

組織概要

所在地	〒320-0808 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F
Tel/Fax	028-612-3341
E-mail	ysn_office@tochigi-ysn.net
設立	(任意団体)2008年7月1日 (法人化)2010年4月1日
スタッフ体制	常勤3名 非常勤3名
会員数	147名 (2016.3現在 企業・団体は1人として計算)
理事/役員	内訳：運営会員 58名 賛助会員(個人) 32名 賛助会員(企業/団体) 13団体/社 チャレンジ会員 44名
代表理事	岩井 俊宗 NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事
副代表	塚本 竜也 NPO法人とちぎ環境未来基地 代表理事
理事	大塚 雅斗 株式会社キッズコーポレーション 代表取締役
理事	小久保 行雄 有限会社ドンカメ 代表取締役
理事	中野 謙作 一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長
理事	古河 大輔 NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 事務局長
理事	金井 光一 NPO法人チャレンジド・コミュニティ 代表理事
理事	清嶋 磨利夫 株式会社キップルネットワーク 代表取締役
監事	安藤 正知 NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事・事務局長 / 宇都宮市まちづくりセンター センター長

賛助会員企業



アイ・こころのクリニック  
KAERU Adventure 株式会社  
有限会社コーチ精機  
株式会社五光宇都宮店

一般社団法人CHEEK UP  
特定非営利活動法人 栃木DARC  
ハッピーメイカー  
株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー

賛助会員企業、個人会員、ご寄付を募集しています。  
詳しくは、オフィシャルサイトをご覧ください。

<http://www.tochigi-ysn.net>



<http://sozo.tochigi-ysn.net/project/genba-challenge/>

